

平和へのイメージ

- ・ 相互理解、安全安心
- ・ 争いの無い風景

平和への気づきやできることなど

- ・ メディアをどう見抜くか
- ・ 他を知ることははじめの一步

平和への課題

- ・ 思いやりが必要、人與人・国と国
- ・ 主観に振り回されることが多い
- ・ 災害対策の根本的対策が必要

【平和へのイメージ】

- ・ 米ソ、冷戦状態が終わり、国際的な戦いは減少することを願ったが、悪くなる一方の状態であり、明るい見通しができないことを悲観している
- ・ 家族
- ・ 相互理解、安全安心
- ・ 幸せ
- ・ 争いの無い風景
- ・ 幸せ何かが何でも守らねば。戦争は不可
- ・ 守りたい、続いてほしい、子どもたちの世代に引き渡さなければならない
- ・ 戦争をなくしたい
- ・ 抑圧や貧困が国際的に解決しようとしているとき
- ・ 一日無事終えて寝る時
- ・ 違いはあってもお互いを理解でき良い方向に向け行動していくこと
- ・ 日々の生活が過ごせるとき
- ・ 現在の世界を見た時に平和を感じることはできない
- ・ 世界各地の戦争、内戦、経済格差による貧民の実態、難民の実態など知らされた時
- ・ 些細なことに腹を立てたり落胆したりした後
- ・ 戦争がないと実感する時
- ・ 家族兄弟達がみんな無事で健康であること
- ・ 獲得したいもの。無知は罪と聞いた。
- ・ 生きることが平和に繋がると思う、生きたうえで何ができるのか、できることをしたい
- ・ 知ることが大切、自分のことを知る、自分の意見を言える
- ・ 災害に対応する組織が脆い、具体的な活動団体に寄付したい
- ・ 地球の人みんなが人間らしく暮らせること、情報公開をし、選挙制度を変えなければならない
- ・ 一日一日無事過ごせたこと
- ・ 不安の無い社会、前(先)が見られる展望を作れる。周りを暖かくする対話が必要

【何を知りたいか】

- ・ 今年の講座は世界視野の平和の現状が理解できると思ったから
- ・ 「平和」を感じることに、何をすべきかが学びたい
- ・ 各人平和というものをどうとらえているか
- ・ 紛争地の現状を知りたいとの思いと平和への道は開かれるのかな?と
- ・ EU の世界観から見える「平和」も興味がある

【平和について新たに気づいたこと考えていること】

- ・ 今の社会の現況に認識不足があったことに気づいたこと
- ・ メディアをどう見抜くか
- ・ 貧困の問題を解決する方法を先進国として考える必要がある
- ・ 個人として何が出来るかが大切なこと
- ・ 震災被害者へのメンタリティに対する配慮はとても重要 図書館活動は交流の場としての意味もある

- ・ 中間団体(国と個人を繋ぐ学校・企業など)の機能、日本、アフガニスタンの現状
- ・ 経済、人権侵害について格差が無い場面を見たとき
- ・ 生きていることの実感
- ・ 民族間の紛争やテロなどのニュースを見て、何て日本は平和なんだろうと感じる
- ・ 自分の生活でも、食物に限っても低賃金で働く人の苦勞が入っている、すべての人が幸せにならなければ自分の幸せもないと考える
- ・ 政治・行政のあり方、国と地方、住民との関係が再考すべきと思いの深まり
- ・ 電気について、原発(原子力・放射能)について再認識、再考が必要と思う
- ・ 自然災害・東京集中について根本的な対策が必要
- ・ 他を知ることははじめの一步
- ・ 日常、世界情勢を多く知る(考えるには情報、資料が必要)
- ・ 相手を受け入れること、理解しようと努力すること
- ・ 人間の欲について浅ましいと常々考える。欲を抑える社会はあり得るか
- ・ 暴力による解決を容認しない社会を共通認識するために自分に何ができるのか
- ・ 平和憲法を守る
- ・ 自分の地域での活動을続けて生きること
- ・ 知識をつけて自分の考えを確立すること・暖かい思い、対話(自己と他を知り発展)
- ・ 民主主義の徹底、情報公開、議論の深化と継続性、世界(地球)化と地方への分権、住民・市民参加による政策決定(専門家との対話・議論を前提に)
- ・ NGO/NPO、企業、組合を含めた様々な団体、組織の重要性、政治・行政・マスコミ・業界、(国・都道府県、市町村)行政機構の限界、救援・援助・情報の必要性
- ・ より一層世界に思いを馳せること必要
- ・ もっと(紛争地や被災地)へ理解を深める必要があると思った。
- ・ 人間同士の触れ合い
- ・ 被災地、紛争地、沖縄・・・それぞれ問題は違う面があっても・・・その現在をすることで色々なことが見えてきて、まず知り学ぶことが平和を考える第一歩になると改めて思った。
- ・ 紛争地と被災地との共通点を確認し合う場面こそ“平和”な状況。
- ・ 生活の困難ということが出て、改めて、日常的な暮らしが・・・普通にできるということ

【今後、取り組めること】

- ・ 実際の支援の話、歴史的視野からの見解など今後も「考える」講座が必要
- ・ NGO/NPO、企業、組合を含めた様々な団体、組織の重要性、政治・行政・マスコミ・業界、(国・都道府県、市町村)行政機構の限界、救援・援助・情報の必要性
- ・ 自分が出来ることは、何かを考え実行すること

【震災後「平和」や「豊かさ」についての考えに変化】

- ・ 概念的であったものが身近なテーマとなった。経済優先より日々の安寧、価値観の変化
- ・ 小さなことが積み重ねられた幸せが、平和であり、豊かさと思うようになった
- ・ 「平和」と思っていたが、日本はちっとも「平和」じゃなかった
- ・ 命の大切さが基本
- ・ 天災はいつ、どのような形でやってくるかわからないので『健康』があれば「備えあれば憂いなし」
- ・ 平素からが考えること、日々の生活の大切さその積み重ね

- ・ 豊かさ：物の豊かさではなく本物の豊かさを日本人は考えるとき

【平和への課題】

- ・ 思いやり、人と人・国と国
- ・ 主観に振り回されることが多いということ
- ・ これまで考えていた以上に複雑で世界平和への希望、一層遠のいた感じがする。
- ・ 歴史を知ること、学習すること、教育の大切さ(今までの教育の姿勢に問題があったということ)
- ・ 身の回りから、もっと、もっと考えて行動する機会を作っていかなければと思う。
- ・ 積極的に知ること
- ・ 自分たちが情報を得ることが必要。中間機能の弱体化
- ・ 国家機能、政策不足・アクション遅れ
- ・ 官僚・東電・政治家・学者・マスコミによる原子力一家の権力構造の強かさ。
- ・ 災害対策について根本的対策が必要。